

# 浅妻氏から河内氏に

## 町政をバトンタッチ

任期満了に伴う町長選挙は二月二日に投票、即日開票の結果、新人の河内直史氏(六十九歳・善久)が、五選を目指す現職の浅妻茂一郎氏(七六歳・金巻)を破り初当選を果たしました。

町長選の得票数は河内氏が六、五一四票、浅妻氏は五、六七七票で、投票率は六五・九四%と、前回の七三・〇九%、前々回の八七・六三%を大きく下回りました。任期最後の二月十二日午後四時から、役場議場で退任式が行わ

れ、浅妻町長は町長として最後のあいさつをし、「今後とも一町民として町づくりにゆきたい」と心境を述べ、四期十六年、収入役、助役時代を含めると二十三年間執務した役場を後にしました。

十三日午前八時三十分、河内新町長が初登庁しました。役場前で職員が拍手で迎える中、花束を手渡され入庁し早速、議場で全職員を前に町政担当の抱負を述べました。



町長事務引き継ぎ

### 平成9年2月2日執行 黒埼町長選挙開票結果

候補者氏名	得票数
河内直史	6,514票
浅妻茂一郎	5,677票

無効票 180 有権者数 18,761人  
投票率 65.94%

投票所	有権者数	投票率
第1 改善センター	2,624人	65.36%

第2 興野保育所	第3 大野小学校	第4 善久保育所	第5 立仏保育所	第6 山田小学校	第7 寺地保育所	第8 板井保育所	第9 木場小学校	第10 黒鳥公民館	計
2,253人	2,566人	1,297人	2,083人	1,971人	2,256人	832人	1,857人	1,022人	18,761人
71.06%	67.93%	65.23%	58.52%	54.74%	56.43%	77.52%	78.03%	78.38%	65.94%

# 就任のこあいさつ

## 黒埼町長 河内直史

このたびの町長選挙で当選の栄誉を与えて頂き、ご理解ある町民皆様の温かいご支援に感謝いたします。

町民皆様の安全と安心と安定した生活を守り、より幸福を願いながら目前に迫った二十一世紀に向けて、時代に即応した町発展のため、民意を尊重した「清新な町政の実現」に鋭意努力いたします。

日本史上、明治維新、戦後改革、「第三の交革」の時代に入り国と地方の意味が変わりつつある認識の中で果たさねばならない責任の

重大さを痛感します。若者の自己実現の願望をはじめ、急速に進む高齢化社会への対応策。地域の人材育成にどう取り組むか。国際化の中で様々な空洞化の危機に直面している農・商・工業者。地方性と大衆性を生かした黒埼独自の町づくり。更に必要な視点として、分散と交流の町づくり。ハードとソフトを分離した思考の矛盾。隣接町村との共通課題解決。地域づくりに貢献することが、国や県に貢献することは必ずしも相いれない状況もあること。国の財政力が弱まった中で地方

分権という名の元での地方財政支出の増加傾向等々、地方分権化の町づくりの現実と課題は全国二千五百町村共通の悩みでもあることを感じております。

久しく地方の時代と云われながらも、中央との格差は開くばかりで地域住民の行政に対する不信感をどうやって払拭するか。激動する社会情勢の中で、変転めまぐるしい価値観の多様化を鋭敏にとらえることが急務です。

地方分権の目指すものは、「個性的で魅力ある町づくり」であり、地域それぞれの思い、こ

われませんが、何はともあれ町民皆様の最大の関心事は新潟市との合併問題でありましょう。私はこのたびの選挙を通じて、「町民参加を進めるガラス張りの町政へ」を旗印として新潟市との合併は、黒埼町の歴史的な重大な問題であるので、自治会単位で説明会等を開催しながら、住民の合意形成をはかり判断したいと思

います。新潟市長さんと私の認識の違いの相互理解を深めて頂くことも早急にやります。

主権在民、民意尊重、でガラス張りの町政を執行し、明るく平和で品位と風格も備えあるべき姿の町づくりを目指し、一年生町長として誠心誠意努力いたしますので、「ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。」

町民各位のご健勝とご多幸とを「祈念いたし就任の挨拶といたします。」

ほんとうに長期にわたりご迷惑の数々をお掛け致し大変お世話になりました。ご恩返しなど大それた事を申し上げましたが、私の力量不足故に尽しても尽ききれず、特に新潟市合併問題及び第4次総合計画の実現、町政の総仕上げ、やり残した将来構想等は去る2月12日河内新町長に事務引き継ぎを完了しました。

最後に私の退任お礼と致しまして、ご恩返しの理念は「禮以起慶」礼を以て夢を起す、と云う意味であります。波瀾万丈の時代と云われても私の人生悔い無し。時代はときと共に、そして人と共に成長してゆくことではないでしょうか。「76の齢重ねて平成九年 余生は希望と感謝で暮らす」私にとって終生忘れ得ぬ思い出の多い人生観でありました。

今後は一つ町民として頑張る所存であり、変わらぬご指導ご鞭撻ご厚情の程お願い申し上げます。ご多幸を「祈念申し上げます。退任のご挨拶と致します。」



# 退任のこあいさつ

## 前黒埼町長 浅妻茂一郎

増加を推進するための創意工夫も必要です。架け橋時代を迎え一層の町民皆様の協力を頂きたく思います。

産業振興については、町内企業との共存共栄を行政執行の基本とし、景気浮沈の影響を少しでも少なくする「依存から自立」へと総合的な転換を検討せねばなりません。

土地利用についても乱開発による田園風景の破壊を食い止め、自然を生かしていかに発

展するか。町民参加による計画構想づくりと合意形成への努力が続けます。土地は本来環境財であるという認識に立って公共性も重視する中で住民自治をはぐくみたいものです。

道路や公園は、生活現場そのものでありますが、公共性の観点でみれば常に短し長しといった施設にならないよう十分な配慮を

していきます。

その他細部に亘っての考察は問題山積と思

った時の嬉しさよ別れの辛さがなけりや良

いとが、色々云われておりますが、私にと

っては今回二度目の敗北を喫し中々得難

い体験と、人生観からして得た教訓を活か

したいと思っております。一回目は昭和60

す。そんな中で私は生還できた事と、今ひとつ私の戦時中に両親を亡くし父は昭和18年、母は翌19年私の復員は昭和21年1月17日その間親戚、隣り近所、当時黒埼村の多くの方々から一方ならぬお世話になり助けて頂いた、ご恩返しを生忘れれる事のできない私でありますので、私にできることである。平成9年2月5日執行の町長選挙の結果異例と云われるカムバック。その時の感謝感激は「世直しと心を一につに戦いし 勝利の灯し平成元年」と決意を新たにされた次第であります。さて、私は昭和24年現在は農協であります。戦後の混乱期でもあり組織改革等が叫ばれ、厳しい理事監事選挙でした。私は28才で当選、その後選挙はありませんでしたが、昭和26年今度村会議員選挙に30才で当選、続いて30年、34年、38年、42年と連続5期

残寒の朝、なお浅く寒い中にも春の気配がすこすこ感じられるようになりました。皆様には益々ご健祥の事とお慶び申し上げます。去る二月二日黒埼町長選挙には内外ともに厳しい歴史的転換期を迎え、国に於いては政治及び行政改革、更に地方の時代として地方分権、規制緩和と云う大きな波風が押し寄せておるところではないでしょうか。私としては正に当町にとって命運を賭けた選挙と認識を致し、それには多くの住民始め議員の方々は選挙法の改正により戦いに似て温かいご支援とご協力を賜りながらそのご期待に添え得なかつたことを深く反省し、衷心よりお詫び致します。この事は総て私の不徳の致すところと厳粛に受けとめ、何とぞご宥恕賜りますようお願い申し上げます。逢うは別れのはじめとか出会いふれ合い感動、又は逢

った時の嬉しさよ別れの辛さがなけりや良いとが、色々云われておりますが、私にとっては今回二度目の敗北を喫し中々得難い体験と、人生観からして得た教訓を活かしたいと思っております。一回目は昭和60年2月に既に広報くろさき2月15日号おしらせ版に掲載されておりますので割愛させていただきます。それから4年が経過して平成元年2月5日町長選挙に再度出馬要請を受けた私ですが、「一度足を洗いわらじを脱いだ者でありますので、かたくお断り致しました。当時私の心境は『世を捨てて山を住居と楽しめば月日の立つも知らぬなげり』と手帖に記してあります。そのよ